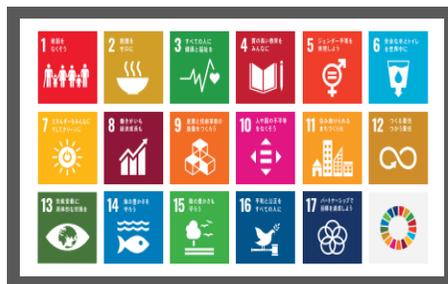


ジェンダー平等ミーティング

令和5年度
若い世代からの
ジェンダー平等
推進事業

12月16日(土) テーマ

「スポーツとジェンダー」



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



「スポーツとジェンダー」

講師：木瀬悠里さん
三川茉莉さん
坂原朱音さん

(東近江バイオレッツ)

< 女子野球について >

- ・東近江市を拠点とし6年目
- ・関西大会2連覇
- ・全国初地域密着型
- ・選手20名、指導者2名
- ・練習してから、東近江市内の職場で勤務
- ・侍ジャパン女子日本代表選出(2018年、2021年)
- ・ボランティア活動

「スポーツとジェンダー」

講師：東近江バイオレッツのみなさん

< なぜ男子野球と女子野球は区別される？ >

- ・日本では「本来、野球は男のスポーツである」という意識が強い
- ・7イニング制
- ・甲子園は出られない（決勝戦のみだが、テレビ中継はない）
- ・オリンピック競技ではない
- ・野球をしている女子がうける偏見
- ・知られていない

「スポーツとジェンダー」

講師：東近江バイオレッツのみなさん

< 女子野球の魅力 >

- ・パワーは劣るが、しなやかでガッツあふれるプレー
- ・笑顔 女子にしかできないプレー
- ・7イニングの中で全力のプレーを
- ・ワールドカップ6連覇中!!

野球を楽しめるのは女子野球でも一緒

一番は自分たちが楽しむこと(好きな気持ちを大切に)

「スポーツとジェンダー」

講師：東近江バイオレッツのみなさん

< 女子野球の魅力 >

- ・球場にトイレがない（「野球は男子のもの」）
- ・着替えに困る

< 多くの方に知ってもらうために >

- ・試合を実際に見てもらう
- ・SNSでの発信やYouTube配信
- ・地域活動（ボランティア、幼稚園や小学校での夢事業 など）

女子野球の発展と認知について考える

◎多くの人に知ってもらい、競技人口を増やす

- ・今部活がある学校はそのまま
- ・高校や大学のサークルでも
- ・有名選手や有名人経由で知ってもらう
- ・小学生に教える 野球教室
- ・ジュニアチームをつくる
- ・PV集、SNS発信で選手自身のファンを増やす

女子野球の発展と認知について考える

◎多くの人に知ってもらい、競技人口を増やす

- ・地域の方々とのつながり
- ・SNSは調べないと出てこない
→ TikTok、おすすめ、「～してみた」などで女子野球の魅力を知ってもらう
- ・イベント
野球体験ブース “楽しさ”を知ってもらう
- ・有名チームと合同練習
- ・試合数を増やし、地元ファンを獲得

感想

- ・今回初めてアマチュアではあるが女性の野球チームがあるということを知った。また、まだまだ認知されていないことが多いんだとも感じました。
- ・野球というひとつスポーツなのに性別で分けられているのは、不平等だなと思いました。また女子野球の知名度の上げ方を考えましたがなかなかいい考えが浮かばず難しいなと思いました。
- ・私の周りでも女の子で野球の子が何人かいて本人たちはのびのびしているように感じていましたが、その子たちも何か制限がある中で野球をしていたのかと考えました。女子だから、などといった偏見やハンデに負けずに野球というスポーツで戦っている姿は本当にカッコよくて素晴らしいなと感じました。

感想

- ・今回のミーティングでスポーツにも男と女の壁があることがわかった。少しずつ変われるように自分も何かしていきたいと思った。
- ・自分も野球をしたのでちょっと共感できる部分があり女性ならではの大変なことや女子野球の見所を改めて感じることもあり、貴重な体験が出来たのでとても良かったなと思いました。
- ・初めて野球の女の人達の活動の話を聞いてとても苦勞されていることを知りました。ですがプレイしている動画を見てとてもすごいと思いましたし、一緒に女子野球を広める案などを考えていくうちに応援する気持ちも増えてとても良かったです。
- ・女子野球の現状の課題などが知ることができた。こういうことを知ることが大切なのでいい機会になったと感じた。

感想

- ・女子野球という存在は知っていたけど、男子野球のように大々的に知っていたわけではなく、バイオレッツさんのお話を聞いて女子更衣室やトイレがないという問題や、女子チームが少ないという問題を聞いてもっと女子野球についてやスポーツでの男女不平等を多くの人に認知してもらう必要があるなと思いました。
- ・多くのスポーツがある中でも野球はまだ女子チームが少なく、女子野球ならではの男女不平等や設備等での不便なことについて知ることができました。
- ・今回初めて参加して、男女の平等に対して改善するためにいろいろなことを考えて行動している団体の話を聞いてとても貴重な時間でした。グループになって改善する具体的な方法を考える時間があり自分で真剣にこのような問題に向き合えてよかったです。

感想

・自分は小,中学生と軟式で野球をしていてチームに女の子がいる時期もありVIOLETSの皆様が仰っていた男女間で困ることなど私も多々ありました。少年野球に混ざっている女の子はよく見かけますが中高に上がるにつれ野球をできる環境が減っている印象がありました。まずは小さい子が大人になるまで続けれる環境が女子野球の発展に必要なだと思います。

・自分の弟が野球をやっていて親も大好きな野球一家みたいな感じですが女子の野球といえばソフトボールというイメージがあったので女子の野球がどんな雰囲気で行っているのか知れてよかったです。以前、ジェンダーの問題でニュースなどに甲子園の中に女性が入ってはいけないというのを耳にしたことがあって驚いたのを今でも覚えています。

ジェンダー平等ミーティング

1月27日(土)テーマ

令和5年度
若い世代からの
ジェンダー平等
推進事業

「企業の取り組みから
考える多様性」

Rakuten



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



「企業の取り組みから考える多様性」

講師：鳥海 彩さん

(楽天グループ株式会社)

< 楽天グループのダイバーシティへの取組 >

- ・SDGs
- ・男女共同参画
- ・気象・環境

地域を元気にしたい

地域の力を高めていきたい → 地域創生事業

「企業の取り組みから考える多様性」

講師：鳥海 彩さん

(楽天グループ株式会社)

- SDGs 課題は山積み
- マテリアリティ(重点分野)
従業員とともに成長
- ダイバーシティは最も重要な戦略
- 多様な従業員が世界中から集まる楽天
サービスをつくるのは他でもない従業員
- 具体的な努力
社内託児室、授乳室、配偶者の定義変更、セミナー研修

「企業の取り組みから考える多様性」

講師：鳥海 彩さん

(楽天グループ株式会社)

<今回は、女性活躍の視点から>

- ・ワーキングマザー → 社内で当然のこととして認知されている
- ・育休 → 以前は長くとることがよいとされてきた
今は、子どもの成長と自身の回復が順調ならば、半年ぐらいで
キャリア形成(復帰)する人もいる
- ・育休期間中に不安を抱えてしまう人 → 復職前セミナー
- ・生まれる前から後まで切れ目なくサポート
- ・楽天の取組 関係者や利用者へ広がっていくように

ジェンダー平等の視点での提案

- キャリア形成の見通しについて経験談を聞ける制度
- 育休の人の仕事を周囲がどのように補うのか
 - 周りのサポートがあれば取得のハードルは下がるのか
 - 仕事を補う周りの人への手当など考えるべき
- セクシュアル・マイノリティは認知してもらえただけでラクになる
 - 特別なことを望んでいるわけではない
- 社内のさまざまな制度
 - 利用する、しないは自由に選択できるように
- 女性管理職の割合

提案を実現するには？

- 育休を取った人の仕事、他の人が分担することについて
 - 仕事の共有をしておく
 - 「分担手当」をつける
- 会社全体で協議
 - 男性も参画しやすくなる
- 性別問わず届く求人ポスター
- リモートワークからの“ゆっくり復帰”
- 周知
 - YouTube、CM、ポスター、ホームページ、パンフレットなど
- ドラマやアニメの中での「男性」「女性」の役割をなくす

感想

- ・楽天という大企業でのジェンダー取り組みの話を知ることができ、普段生活していると知らないことがいっぱい、特に職場に託児所や授乳室があるのはすごい取り組みだなと感じました。
- ・楽天内に託児所や授乳室が設けられているのは素晴らしいと思ったが、用意する資金が無い企業ができる取り組みにはどんな事があるだろうと思った。
- ・楽天ほどの大手企業は育休についても進んでいるなというかんじだった。中小企業はまだそういうところが進んでいないと思うので、様々な取り組みで改善出来たらいいと感じた。
- ・育児休暇によって仕事にブランクができて、ついて行くのが大変になると聞いて、これでは育児休暇の取得率が上がりづらいだろうと思った。

感想

- 今回のセミナーを通じて、楽天さんは、いろいろなことに取り組みをされており、ターゲットを絞らず、あらゆる世代の方にサービスを提供していることがわかりました。また、女性も働きやすい環境があるため、今後も他の企業でも取り組んでほしいと思いました。
- 話を聞いて、大手の企業は託児所など様々な子育てに関する設備などがあってさすがだなと感じました。中小企業も今はまだ子育ての設備を整えるのは難しいかもしれませんが、いつかはどんな会社でも子育てがしやすい環境になっていたら良いなと感じました。
- 楽天さんは男女の育休取得率や役職に就いている方が多く、ジェンダー平等により深く理解がある会社だと思った。キャリア復帰ができている社員の方が多くもっとこんな企業が増えれば良いなと思った。

感想

・企業においても様々な取り組みがなされていることを知ることができました。これからは企業においてもジェンダー平等がなされていければよいと思いました。

・搾乳室があり、冷凍保存することができるという企業は初めて聞いたので、驚いた。また思った以上に、キャリア復帰率が高いことにも驚いた。キャリア復帰は注目の集まることだと思うので、社内でキャリア復帰をした人の体験談などをホームページなどに載せたほうが良いと思った。

・楽天さんのお話を聞いてしっかりとジェンダー平等や女性参画に取り組んでくれている企業があることが知れてよかった。実際に子育てをしながらテレワークをされている姿を見ることができ、そのような働き方が広まれば良いなと思いました。

感想

- 話を聞いていて大手だから出来るのでは?という疑問が生じ中小企業にとってなかなか難しいのではないかと思いました。
- 社内の環境を社員が明確に素晴らしいと思えるように整えることが企業の責任だと思った。
- 楽天グループの社内で誰もが働きやすい環境のために取り組まれていることについて知ることができました。大きな会社だからできることもあるかなと思いました。中小企業でも取り組めることを考えていきたいと思いました。
- 仕事に関して楽天さんがどのような取り組みをしているのか知れて安心しました。この取り組みを多くの人に知ってもらえる取り組みを拡げて認知して欲しいと思いました。

感想

- 女性のための施設が増えている一方で、男性のための施設があまり見られななので、増やすために宣伝をするべきだと思います。そうすることで、男女平等な社会に繋がると思います。
- 楽天の育児制度についての話を聞いて、仕事場に託児所や授乳室があるのはとても良いと思いました。楽天のように仕事場に託児所や授乳室がある企業は少ないと思うので、増えていったらいいと思いました。
- 有名な企業をジェンダーの視点で詳しく見たのが初めてだったのですごく新鮮で楽しかった。知らないこともたくさん知れたのでよかった。今後自分が就職活動をするときもジェンダーの視点で企業を探してみようと思った。

ジェンダー平等ミーティング

令和5年度
若い世代からの
ジェンダー平等
推進事業

2月10日(土)テーマ

「古典文学をジェンダー史で読む」



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



「古典文学をジェンダー史で読む」

講師：京樂 真帆子 さん
(滋賀県立大学教授)

- 紫式部の職場環境
宴の席でのハラスメント
- 藤原公任
源氏物語は男性も読んでいたことが分かる
- 清少納言の愚痴
男社会
活躍した清少納言ですら愚痴を言うほど
- 紫式部の苦悩
漢字を書けないフリをしなくてはいけない

「古典文学をジェンダー史で読む」

講師：京樂 真帆子 さん
(滋賀県立大学教授)

- ・「女性によるアンコンシャスバイアス」にとらわれていた
→ジェンダーバイアスと闘って勝った人たちが歴史に名を残している

- ・和泉式部の評価の変化
子育てしながら働き、恋愛もした人

時代によって和泉式部の評価はどんどん変わっていった
→和泉式部研究が進んだわけではない
変わったのは社会であり、ジェンダー

和泉式部に何と声をかけますか？

- ・今は自分らしく生きられるようになっていきますよ
- ・ゆるく、自由になってきています
- ・地位は関係なくなってきました
- ・今でも不倫はダメ
- ・恋多き人生だったのですね

→ジェンダーバイアスがそれほどきつくはなくなり、自分らしさを発揮できるようになってきているのは素晴らしいこと
しかし、だれもがといわれると・・・

私たちはこの社会でどうしていけばいいのか

- ・1人ひとりがジェンダーバイアスをなくしていく
- ・ジェンダーの認知度を上げていく
 - 映画の上映
 - 考える機会を増やしていく

→社会で
家庭で
友だち同士で

もっとジェンダーについて語り合う、教え合う

感想

- ・今回は古典的な視点からジェンダーについて知ることができました。和泉式部さんは今の時代を生きていたら少しは過ごしやすい世の中であったのではないかと感じました。
- ・平安時代の日本と今の日本では、だいぶ進化してきていると思いました。昔は堅苦しい感じで厳しそうだけど、今は自由で好きに暮らせると感じました。
- ・いつもよりテーマが難しく、話し合いがきちんとできたかは怪しいですが、現代だけでなく古典から学べるジェンダーの視点が面白かった。ジェンダーの概念が無いと思っていたので、現代と変わらないような価値観が見えるところや時代と共に変化していくのが興味深く感じた。

感想

- ・古典文学という、難しい視点から学ぶジェンダーは今までのミーティングよりも新たな視点からの発見が多くありました。また、講師の方のお話が分かりやすくてよかったです。さらに、私たちが考えたできることには、すぐ実践できることが多くあり勉強になりました。
- ・古典文学をジェンダーという観点から見ると新しい発見があることがわかった。平安時代でもスキャンダルや職場での出会いがあることに驚いた。
- ・1000年前の女性の苦勞がうかがえて、今の世の中はとても理解ある世の中になったと思いました。昔の女性が現代で活躍できたらどれだけ自由に過ごせただろうかと思いました。

感想

- ・古典文学からジェンダーを考えることがなかったので新鮮でした。故人に語りかけるという新鮮な体験ができました。
- ・古典は苦手ですが、現代語訳も合わせて分かりやすく解説してもらえたので、古典への苦手意識が少し無くなりました。現代でもジェンダー不平等な課題が残っているので、自分でできることを考えて変えていきたいと思いました。
- ・和泉式部は初めてしっかりと生い立ちなどを聞いたけれど、歴史を重ねるごとに内容（評価）が変わっていて、随分違う人物になってしまって驚きました。
- ・昔と比べると生活しやすいと感じますが、まだ、偏見的な考えを持っている人もいるため、お互いに認め合っていくことが大切だと思います。